

近江神宮

近江神宮は 1940 年に建設され、667 年に日本の首都を大津に移された天智天皇（626–672）を祀っています。天智天皇は、大きな拝殿の後ろにある本殿に祀られています。近江神宮の中心部に入るには、赤く鮮やかにそびえ立つ門（楼門）をくぐります。楼門は、近江神宮の周囲の森に密集して生える木々の緑とコントラストをなしています。

天智天皇は、日本初の水時計（漏刻）を作られたことで有名で、近江神宮には、日本や世界各地から集められた数多くの時計が収蔵されている時計博物館があります。境内には実寸大の機能する漏刻のレプリカが展示されており、毎年 6 月 10 日には、「時の記念日」を祝うお祭りが開催されます。

天智天皇は、有名な百人一首の第 1 首となる和歌を詠まれました。百人一首とは 100 首の和歌を集めたもので、作者には宮中の有力人物が多く含まれます。百人一首の和歌は、かるたという人気のカードゲームにも使われます。上の句が朗読されると、下の句が書かれたカードを競って探すというゲームです。競技かるたの世界において、近江神宮は重要な大会の開催場所となっています。日本のかるたナンバーワンを決める名人戦とクイーン位を決める決勝戦などの大会が定期的に行われます。